



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 148 号

2016 / 2

RACDA20周年、路面電車延伸に向けて、瓦版の意義と変遷

1. はじめに

公共の交通 RACDA20周年を振り返る中で、毎月第一日曜日に開催される京橋朝市で配布される「かわら版」の存在を忘れてはいけない。このかわら版は、公共交通整備の重要性を伝える RACDA にとってのアイテムの一つである。

非常に快適で不便と感じさせない車中心の現代交通社会の中で、公共交通の存在と整備の必要性を伝える事は、なかなか容易な事ではない。なぜならば、マイカー中心の交通生活の中で不便性を感じないからだ。

マイカーだと時刻表もなければ、途中停車する駅や停留所もない。多少の渋滞があるにしろ、移動時間だけでなく車内空間までもが自分中心なのだ。むしろ公共交通を利用して移動するよりも、ストレスを感じる事が少ないのが現実。

しかしながら、今後さらに過度に進行する高齢化社会を迎える中、マイカーを運転できなくなる又は運転に危険性が伴う人口は増え続けていく。

その結果、自分自身で生活移動が出来かねる交通弱者だけでなく交通事故犠牲者も増加する事が想定されるのである。

私的交通機関のマイカーを手放し、公共交通機関に頼らなければならない時代の到来を紙に撞木をペンに代え11年間、警鐘を鳴らし続けてきたのが RACDA かわら版である。

2. 振り返り1(かわら版創刊から約9年間)

「路面電車の延伸は無くなったの？」これが、かわら版創刊号の見出しである。2004年10月3日にかわら版は産声をあげました。RACDA 設立9年後の事です。ちょうど創刊1年前に JR が富山港線と吉備線の LRT 化構想を発表した頃でした。市内の路面電車も商工会議所が中心となり、市内環状線化構想を推進していただく中、市民に盛り上がりがなく、生活様式をクルマから公共交通にシフトする事が困難であり、一番かわらないのが人なのであると綴っている。

それでも我々は公共交通の整備の必要性を伝える為に、いかに身近に感じていただくか、興味を持っていただくかを考え、駐車違反取締り強化やガソリンの高騰化、年末年始の渋滞状況などの生活に身近なトピックスのほか、公共交通を利用した紀行文「小さな旅」などを連載するなど、まずは公共交通に関心を持っていただく為の糸口、きっかけ作りを

NPO 法人公共の交通ラダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索



模索していた。それを裏付けるように、見出しに着目してみると、「身軽で気軽な外出スタイル～200X年のゆうたくん一家」、「数年後の吉備線に乗ってみる-現代があつてこうなる-」など吉備線LRT化による利便性を伝えるSFチックな記事。

「岡山・富山・栃木、共通するのはサッカーとLRT」、「庭園都市への提言～線路を芝生で敷き詰めて～」など公共交通とタイムリーな話題を絡めた記事など、近未来予想図を語る事で解りやすくする事により、関心を持っていただき少しでも理解をしていただこうとした事が窺える。

3.振り返り2(ここ近年のかわら版)

創刊から9年、RACDAが創設され18年を過ぎたあたりから大きくかわら版の内容も変わってくる。

「路面電車駅前乗り入れ・環状化署名13,046人、岡山市に提出」、「路面電車駅前乗入等の岡山都市再生に8億5100万円の予算」、「吉備線LRT化素案第2弾(岡山市・総社市・JR西日本)初期投資約160億円、三門まで複線化、1時間4-6本に増発」などの具体的な数字が紙面に記載されてくるのである。ここで重要なのはこの紙面を踊る数字がRACDA独自で試算をした数字ではなく、市民と行政及び民間の中で算出された第3者も含めた公的な数字であるという事である。つまりようやく創設20年の月日を経て、RACDA以外の卓上で、未来に向けた岡山の公共交通のズジが引かれ始めたのである。

そして駅前乗入については、RACDAが推進する平面乗入を含め、高架案、地下案、デッキ案が提案される中、平面乗入とデッキ案に絞られ協議された結果、いずれかが現実となる。

吉備線LRT化にしても、推進に意欲的な片岡氏が総社市長に再選し、こちらも希望のレールが延伸する事となった。我々の提唱する、路面電車を中心とした街づくりに向けての、市内延伸の実現にはまだまだ遠い道のりかもしれないが、路面電車の線路が1センチでも延伸すれば、大きい事である。0から1にする事。これが一番、難しい事である。

4. そして(10,000cm延伸の意味とかわら版の意義)

2015年11月24日。RACDAにとって大きな1日となった。岡山市の大森市長が定例記者会見において、路面電車の駅前乗り入れについて平面方式にて検討を進めると発表したのである。RACDAが提案し続け20年の月日を経てようやく10,000cm、路面電車の線路延伸が現実的になった。駅前乗り入れについては約2年前に検討の着手表明があつたものの、その後は紆余曲折があつた。駅前乗り入れに関する検討会が発足してからは、平面、高架、地下、デッキの4案で最終的に平面1案とデッキ2案の3案に絞られた。

しかもデッキ案が優位との根拠のない噂が先行した中、かわら版の内容は乗継利用者、高齢者の視点から①歩かさない、②濡らさない、③待たさないを鉄則とする駅前平面乗り入れ案を支持する記事が増えた。本件に関して英断を下した大森市長には敬意を表したい。30年後、50年後、100年後の岡山の街を真剣に考えていただいているのであろう。それを裏付けるかのように、駅前乗り入れは一つのステップであり、延伸や環状線化も頭の中にあると発言された。

かわら版が直接世の中を変える事は無い。ただ世の中の動きや問題をわかり易く伝える事により、人の心を変える事は出来る。これからは民衆の時代だ。10,000cm延伸のほんの10cmでも、かわら版の効果があつたと信じている。(安藤 亮)